

赤坂動物病院

名誉院長 柴内裕子 先生

そのような犬の、人の社会での働きを数えてみると30にも及び、様々な役割を担って役立っています。

そして、すでに帰る自然を失わせ、人の社会

このように大切な犬との暮らしを見直してみると、何とペット不可は変わらず多く、とても家族としての処遇とは思えません。

犬を連れて外出すると、私たちの行動範囲は大きく制限されてしまいます。

犬と一緒に歩ける

公益社団法人Knots（結び目）は、「人と（ヒト以外の）動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。

Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

## 帰る自然を失わせた伴侶動物の代表犬 犬の散歩にはペットシートを持って

近年さまざまな遺跡等の調査で、人と犬との付き合いの歴史は4万年に近いと推測され、犬と暮らす人々の80%が、犬は家族、子どもですと答えています。

の、家族の一員としてのみ生きる存在となつていきます。

ショッピングモールや、入店可能な店舗、特にレストランはまだまだ少なく、交通機関のほとんど

が、バッグやカートに入れない利用できませんし、ホテルも同様です。

今、日本で犬の嫌われる理由は散歩での排泄です。路面を汚したままにしていることです。本来

室内で排泄を済ませ、そのご褒美に散歩に出るのが正しいのですが、現状は“散歩で排泄をさせてきましょう”の人も多いのです。

現状は、家を一步出ればそこは公道か、他人の土地で、排泄で汚して良いところはあります。

犬は本来、自分の巣穴の中は汚さないで離れたところで排泄をしたい習性ですから、街路樹や電信柱、塀、花壇は好みの排泄場所です。特に雄犬は何か

所でも足を上げます。

私たち公益財団法人日本ヘルスケア協会の「人とペットの共生によるワンヘルス部会」では、“犬の散歩にはペットシートを持って”と呼びかけています。

路面の尿を、ペットボトルの水で拡散することもやめましょう。

こんなに素晴らしい犬が、多くの人たちにもっと愛されるよう日々心がけたいものです。

